

第7期後期を迎えるにあたり

柴田雅由

小泉内閣の誕生で、国民の政治への関心が、ぐっと高まり、マスメディアでも政治の話題を多く取り上げるようになった。報道各局では特番を組み、高視聴率を上げ、政治がメインテーマの定期番組も人気を得ている。

日本は、島国で単一民族であり、移民も多くは受け入れていない為、風習や宗教、物の考え方等に大きな違いはない。逆に陸続きで国々が点在する大陸では、長い歴史の中、民族闘争や戦乱で人種、宗教、風習の異なる人々が集合離散を繰り返し、国家が形成されるも、統一の計れない国が今でも多数存在する。かくして、そういった国の人々は、政治を行う者、統治する者により、個々の立場も180度変わってしまうこともあるため、国を治める政治に対し、古くから強い関心を持ち、政治の重要さを肌で感じてきた。市民運動にも国民の多くが参加し、国、政治を改革する原動力にもなっていた。日本国民の場合、それらの国の人々と異なり、昔から「お上の・・・」と言われるように、政治に関しても同類、同族の安心感からか、任せ切りで、余り関心を持たずに現代まで来ていた。しかしながら、近年の目覚ましい情報手段の発展、小泉政権の登場、主にテレビによる露出、露見の夥多により、政治が芸能・スポーツなどの人が中心の娯楽と肩を並べる程、国民の関心事となってきた。又、テレビは視覚・聴覚、同時に入ってくる為、より鮮明に記憶され、その結果、人々の共通の話題としても政治が語られるようになってきている。

このように、政治に対し、大勢の人が関心を持ち得た今、余り関心を持たなかった時代と同じような感覚で政治をしたならば、いずれ手痛いしっぺ返しを国民より頂戴する羽目になると思われる。それと同様、政治を司る政治家も、庶民感覚から余り掛け離れた心情では、選挙でも苦杯をなめることも充分考えられる。

第7期後半は、これらの事を思いつつ、政治の本質を熟知され、その中心で活躍されている著名な講師陣のご講演を、しっかりと拝聴し、政治を主題とする映画やドラマの脚本が一本書けるほどの政治知識が身に付き、政治談議が楽しく交わせる様になれればと思う。